

# 令和5年度第1回 横須賀市観光振興推進委員会 議事要旨

日 時：令和5年(2023年)10月20日(金) 15時00分～17時00分

場 所：横須賀市役所10階 第4委員会室

- ・ 他地域の人からの横須賀に対する良いイメージは、資産であり宝となる。音楽、ダンス、エンターテインメントなど、横須賀の強みを活かしたイメージにお金と時間を使い、観光を行う上で大切な要素となるイメージ戦略として大切にすることが必要である。
- ・ 消費単価を増加させるためには、市内を何か所も周遊させることが大切である。同時に早朝や夜の滞在時間を延ばし、宿泊にもつなげなければいけない。夜は、お酒に焦点を当てるイベントを行うと、単価が増やすことができる。また、観光客だけでなくビジネス客を観光へとターゲットすることも大切である。
- ・ 見るだけのスポーツだけではなく、マラソンやサイクリングなど一般の人が参加できるような参加型のイベントについてももう少し考えるべきである。
- ・ ルートミュージアムの中に市内西エリアも巻き込みながら、人が来にくい冬の時期などを狙って、市全体で回遊できるような仕組みができれば、全体的な底上げになるのではないかと。また、ソレイユの丘をはじめとした、西エリアの肥沃な大地や良い景観については、これまであまり際立たせて見せ方をしていなかったのではないかと。
- ・ 横須賀に対する感覚は以前より非常に良くなっているため、プレミアムなものや上質なものに光を当てて洗練していくと、全体を引き上げる効果がある。
- ・ ルートミュージアムでは史跡や歴史のある場所が多いが、観光客はそれを見ただけで終わってしまうため、消費する場所が少ない。史跡などの整備のほか、消費を促すための整備が必要である。

- ・ 観光庁のデータでは、新規で来訪した旅行者は消費も多く、リピーターになることが明確に出ている。地方に行くほど消費単価やリピーターも増える。観光客は消費者であるため消費する場所がないと、お金を使いたくても使えなくなってしまう。
- ・ 横須賀では、電車で来訪する観光客が昼食を食べに店舗に行くが、昼食後の二次消費、三次消費が少なく、昼食後そのまま電車で東京方面へ帰ってしまう。二次消費や夕方の消費が都心部や観光客の地元で消費されているため、そこを改善して夕食につなげられるように地域で盛り上げていかなければいけない。
- ・ 資料や全体の話の中に市民があまり登場していない気がする。お店での地元の人のおもてなしなど良い体験があると、その土地が好きになっていく。
- ・ 今年度の MEGURU Project は非常に良い取り組みだったが、多くの人には知られていなかった。素材は素晴らしくコンサートなどのコンテンツも十分だが、プロモーションや流通チャンネルに問題があった。素材やコンテンツと流通チャンネルをうまく組み合わせ、結果を出すことにより好循環を作り出し、新たな取り組みへと進めていく必要がある。
- ・ ルートミュージアムで来訪した人を含めて、人流導線の分析をよく行う必要がある。横須賀市は他の場所と比べてどこから入って、どこへ出るのかを捉えるのが難しいと感じている。
- ・ 現在も市内の観光事業者と連携した取り組みを行っているが、市内の他の産業界や独立行政法人の方々とも連携することで、取り組みにさらに広がりが出るのではないかと。